

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03397

研究課題名(和文)国際化におけるリバースイノベーション・サイクル探求 - 小売とサービスの比較研究 -

研究課題名(英文)The study on cycle of reverse innovation in globalization:comparing the retail with the service sector

研究代表者

崔 相鐵 (CHOI, Sangchul)

関西大学・商学部・教授

研究者番号：10281172

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、小売国際化をイノベーションの発生とそのフローの視点から捉えなおすことによって、包括的な統合国際化モデル構築を目指していた。新興国からの逆進出現象というまだほとんど誰も取り上げていない現象を切り込んだことは従来の研究にない大きな特徴である。

本研究によって、市場創造プロセスの視点からみると、少なくとも小売業は「萌芽的リバース・イノベーション」から「完全なるリバースイノベーション」に向かって進化していることが明らかにされた。本研究は製造業を対象にしてきた「国際化におけるリバースイノベーション論」の潮流に新たな理論体系を加えることまでには至っていないが、それは次の研究課題に残されている。

研究成果の概要(英文)： This study aimed to construct a comprehensive integrated internationalization model by reconsidering the retail internationalization in a point of view of the creation of innovation and its flow. Our research is superior in terms of challenging to what previous researches had hardly taken up the phenomenon of reverse entry from emerging countries.

From the viewpoint of the market creation process, this study revealed that retail internationalization is evolving from “exploratory reverse innovation” toward “complete reverse innovation” at least. This study has not been able to add a new theoretical system to the trend of the theory of “reverse innovation in internationalization” that has been targeted to the manufacturing industry, but this remains in the next research subject.

研究分野：流通・マーケティング

キーワード：リバースイノベーション 先端的国際小売企業 新生現地小売企業 コングロマリット グループカ  
ファミリービジネス 逆進出現象 新興国市場

### 1. 研究開始当初の背景

非製造業の国際化に関する研究は、まず小売業から始まりその後サービス業に注目が集まり、国内外において多くの蓄積があるが、激しく変化する現実に理論研究は追いついていない。両分野における最新動向は、新興国を発生源とする国際化である。これは従来の研究が全く射程に入れて来なかったものであり、これについて研究代表者は「逆進出」なる概念を創出して分析を始めているが、この現象を深く理解するにはイノベーション理論、とりわけリバースイノベーション論の分析視角との融合が不可欠であることが分かってきた。

### 2. 研究の目的

本研究は、イノベーション論の視角から従来とは全く逆の動きをとらえ、同時に小売業とサービス業の比較分析によって国際化におけるイノベーションの発生論理の差異を明らかにするものであった。

### 3. 研究の方法

既述の研究目的達成のために明らかにすべき課題は、理論研究・事例探索・事例分析という3つのステップを通じて遂行された。最先端の動向を分析しようとする本研究にとって、提示した理論仮説を検証可能なより厳密なモデル構築を通じて行うためには、事例探索段階が重要な位置を占める。その後、事例分析によって理論仮説の一般妥当性の検証が行われた。

### 4. 研究成果

(1) 小売国際化をイノベーションの発生とそのフローの視点からとらえ直すことによって、新興国からの逆進出現象という未だほとんど誰も取り上げていない現象に切り込むことができた。製造業を対象としてきた既存国際化研究の潮流に、新たな理論体系として「市場創造プロセスの視点から見たリバースイノベーションの進化」を加えることができた。本研究によって「国際化におけるリバースイノベーション・サイクルの存在」を証明することが可能であり、それは停滞する日本の小売国際化研究やサービス国際化研究において未開拓の研究分野の存在を明らかにしたことに意義がある。

(2) その成果を事例探索につなげていく形で、近年、産業構造や流通近代化に向けた早急な取り組みを図っているベトナム市場に注目した。最近、カンボジアやミャンマーのような近隣諸国への事業展開を行っているベトナム企業の例が多く見られるなか、イノベーションの逆進出的側面を理解するために「地元小売業者と外資小売業者との競争」についての研究調査を実施した。その成果を「ベトナムにおける小売業の現状と課題」という論文にまとめた。規制緩和、中間

流通の整備、信頼できる現地パートナー企業との連携やグループの相乗効果を活用し、迅速に店舗網を構築することがベトナムにおける小売業の成功のカギとなっていることが明らかにされた。

(3) 新興国における後発の地元小売企業の躍進について、ファミリービジネス論の視座から先端的国際小売企業の国際行動パターンのどこがどう異なっているかという課題を明らかにした。小売国際化における両者の主体は、進んでいるか後れているかを問わず、流通近代化や市場環境の違いを超えてファミリービジネスが重要な地位を占めている点で共通している。先進国出身の国際小売企業のファミリービジネスの優位性は先端的な小売ノウハウ・豊富な小売国際化経験を通じた情報知識や専門知識をもった人材の確保で専門化の利益を追求しようとしていた。それに比べ、新興国出身の後発の地元小売企業は、意思決定の速さと巨大な資金の調達を活用し、規模の経済性を発揮することで国際競争力をつけることができた。とりわけ、新興国出身のコングロマリットは人的資源や小売ノウハウ・情報知識の制約を克服するために、華人ネットワークやそのグループ力を生かしてグローバル事業の成功に挑んでいた。小売・サービス業の国際化のダイナミズムを表す、より説明力のある高い理論モデルを構築するために、ファミリービジネス論に一層注目することは、本研究で提示された小売・サービス業の国際化研究における目的の達成のための一つの手がかりになるということが再び確認された。

(4) 地元企業でありながら、グローバル企業に勝ち抜き、海外進出にも積極的かつスピーディな国際化を推し進めているフィリピンのジョリビーの事例を通じて「リバース・エントリー戦略」という新たな概念的枠組みを提起することができた。新興国内における域内成長が国際化に結びつく理論の構築やプロセスを解明しようとするもう一つの試みであった。なお、フィリピンにおける地元小売企業の成長と外資系小売企業の競争に関する研究調査および成果を通じて、進んでいる国で生み出された先端的技術やノウハウが強みとして発揮しにくい環境条件の下では、類似した消費性向および流通構造の問題を有している同等な新興国出身のコングロマリットの方が競争優位性を獲得しやすくなることが明らかにされた。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 13 件)

白 貞王、家具専門店：ロマンとビジョンで家具業界を動かすニトリ、1からの流通システム、査読無、2018、191 - 205

Myungrae Cho, Analytical Framework for Promoting Customer Participation in Benefit Delay Type Services, The Journals of Economics, Marketing & Management, 査読有、6巻1号、2018、9-16

ズオン ティ トゥイ・崔相鐵、発展途上国企業の海外進出戦略に関する一考察：比ジョリピーの事例を中心に、流通科学大学論集（流通・経営編）査読無、30巻2号、2018、113-134

崔相鐵、マーケティング的思考のすすめ②：アジア人観光客の増加と日本の小売業態の覚醒、架け橋（在日韓国商工会議所）査読無、157号、2018、32-34

白貞壬、フィリピンにおける地元小売企業の成長と外資の参入障壁、リサーチレター（流通科学大学）査読無、29巻、2017、1-12

白貞壬・向山雅夫、グローバル事業を成功させる新興国の地元小売企業、東アジア研究、査読有、67号、2017、17-34

崔相鐵、シリーズ・マーケティング的思考の勧め②：eコマース時代における流通業界のオムニチャネル戦略、架け橋（在日韓国商工会議所）査読無、156号、2016、36-38

Myungrae Cho and Masao Mukoyama, Conceptual Framework of Reverse Retail Internationalization: From the Perspective of Retail Innovation and Retail Format, Journal of Distribution Science, 査読有、14巻11号、2016、5-17 <http://dx.doi.org/10.15722/jds.14.11.201611.5>

白貞壬・ズオン ティ トゥイ、ベトナムにおける小売業の現状と課題、リサーチレター（流通科学大学）査読無、26号、2016、1-17

白貞壬、小売チェーン組織における管理手法の問題、流通科学大学論集（流通・経営編）査読無、29巻1号、2016、37-55

白貞壬、国際ビジネス研究におけるリバース・イノベーション - 文献研究を中心とした概念の再考 -、流通科学大学論集（流通・経営編）査読無、28巻2号、2016、65-85

崔相鐵、なぜコンビニがずっと消費者に指示されるのか、架け橋（在日韓国商工会議所）査読無、155号、2016、30-31

崔相鐵、新たなマーケティングの時代の到来とケミカル・シューズ業界の対応、成熟経済におけるケミカルシューズ業界の新たな挑戦報告書、査読無、在日韓国商工会議所兵庫編、2015、49-67

〔学会発表〕(計 9 件)

Jung-Yim Baek, The Global Innovation of Retail Format, in Emerging Countries, The 13th International Conference on Business and Economics, 2017年12月27日

崔相鐵、日本経済の成果配分現況と日本中小企業の労使間価値共有事例、韓国中小企業学会・日本特別セッション、2017年4月25日

崔相鐵、マイナス金利時代の日本消費市場展望、第9回日本経済フォーラム、2016年4月15日

Jung-Yim Baek, Costco's Success and Impact in Japanese Market, The 7th International Conference on Logistics and Transport 2015, 2015年11月19日

白貞壬、ニトリの国際商品調達、日本商業学会関西支部会4月例会、2015年4月18日

向山雅夫、小売国際化の新概念 グローバル・ポートフォリオ戦略、日本商業学会関西支部会4月例会、2015年4月18日

崔相鐵、日本における小売国際化研究の回顧・現状・行方、日本商業学会関西支部会4月例会、2015年4月18日

崔相鐵、長期景気沈滞の中でも成長を続けた日本の流通企業、第6回日本経済フォーラム、2015年6月29日

崔相鐵、韓国企業の日本消費市場進出戦略、日本経済研究会、2015年9月21日

〔図書〕(計 1 件)

崔相鐵 他、碩学者、1からの流通システム、2018、246

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

#### 6．研究組織

##### (1)研究代表者

崔 相鐵 (CHOI, Sangchul)

関西大学・商学部・教授

研究者番号： 1 0 2 8 1 1 7 2

##### (2)研究分担者

向山 雅夫 (MUKOYAMA, Masao)

流通科学大学・商学部・教授

研究者番号： 0 0 1 8 2 0 7 2

##### (3)研究分担者

白 貞壬 (BAEK, Jungyim)

流通科学大学・商学部・准教授

研究者番号： 6 0 4 0 0 0 7 4

##### (4)研究分担者

趙 命来 (Cho, Myungrae)

香川大学・経済学部・准教授

研究者番号： 6 0 5 8 2 2 2 8